

## 古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「伊勢物語 東下り」 問題②

①行き行きて、駿河の国に②至り<sup>ア</sup>ぬ。宇津の山に③至りて、わが④入ら<sup>イ</sup>むと⑤する道はいと暗う細きに、蔦・楓は⑥茂り、もの心細く、すずろなるめを⑦見ることに⑧思ふに、

修行者⑨会ひ<sup>ウ</sup>たり。「かかる道は、いかでか⑩いまする。」と⑪言ふを⑫見れば、⑬見<sup>エ</sup>し人<sup>オ</sup>なり<sup>カ</sup>けり。京に、その人の御もとにとて、文⑭書きて⑮つく。

駿河<sup>キ</sup>なる宇津の山べのうつつにも夢にも人に⑯あは<sup>ク</sup>ぬ<sup>ケ</sup>なり<sup>コ</sup>けり

富士の山を⑰見れば、五月のつごもりに、雪いと白う⑱降れ<sup>サ</sup>り。

時⑲知ら<sup>シ</sup>ぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪の⑳降る<sup>ス</sup>らむ

その山は、ここに㉑たとへば、比叡の山を二十ばかり㉒重ね上げ<sup>セ</sup>たら<sup>ソ</sup>むほどして、なりは塩尻の<sup>タ</sup>やうになむ㉓あり<sup>チ</sup>ける。

なほ㉔行き行きて、武蔵の国と下総の国との中に、いと大きな河㉕あり。それをすみだ河と㉖いふ。その河のほとりに㉗群れゐて、㉘思ひやれば、限りなく遠くも㉙来<sup>ツ</sup>に<sup>テ</sup>けるかなと

㉚わびあへ<sup>ト</sup>るに、渡し守、「はや舟に㉛乗れ。日も㉜暮れ<sup>ナ</sup>ぬ。」と㉝言ふに、㉞乗りて㉟渡ら<sup>ニ</sup>むと㊱するに、みな人ものわびしくて、京に㊲思ふ人なき<sup>ヌ</sup>にしも㊳あら<sup>ネ</sup>ず。さる折しも、白き鳥

の、嘴と脚と赤き、鳴の大きさ<sup>ノ</sup>なる、水の上に㊴遊びつつ魚を㊵食ふ。京には㊶見え<sup>ハ</sup>ぬ鳥<sup>ヒ</sup>なれば、みな人㊷見知ら<sup>フ</sup>ず。渡し守に㊸問ひ<sup>ヘ</sup>ければ、「これなむ都鳥。」と㊹言ふを㊺聞きて、

名にし㊻負はばいぎ㊼こと問は<sup>ホ</sup>む都鳥わが㊽思ふ人<sup>ハ</sup>ありやなしやと

と㊾詠め<sup>マリ</sup>ミければ、舟こぞりて㊿泣き<sup>ム</sup>に<sup>メ</sup>けり。

# 古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「伊勢物語　ゝ東下りゝ」 解答②

① 行き行きて、駿河の国に②至り<sup>ア</sup>ぬ。宇津の山に③至りて、わが④入ら<sup>イ</sup>むと⑤する道はいと

ラ四用

マ上一体

ハ四体

暗う細きに、蔦・楓は⑥茂り、もの心細く、すずろなるめを⑦見ることに⑧思ふに、

ハ四用 完了

サ変体

ハ四体

マ上一体

マ上一用

過去

断定

修行者⑨会ひ<sup>ウ</sup>たり。「かかる道は、いかでか⑩いまする。」と⑪言ふを⑫見れば、⑬見<sup>エ</sup>し人<sup>オ</sup>なり

詠嘆

カ<sup>ケ</sup>けり。京に、その人の御もとにとて、文⑭書いて⑮つく。

カ四用

カ下二終

カ下二終

存在

駿河<sup>キ</sup>なる宇津の山べのうつつにも夢にも人<sup>ニ</sup>に⑯あは<sup>ク</sup>ぬ<sup>ケ</sup>なり<sup>コ</sup>けり

ハ四用

打消

断定

詠嘆

富士の山を⑰見れば、五月のつごもりに、雪いと白う⑱降れ<sup>サ</sup>り。

マ上一体

ラ四用

ラ四用

存続

時⑲知ら<sup>シ</sup>ぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪の⑳降る<sup>ス</sup>らむ

ラ四用 打消

ラ四終

現在推量

ハ下二用

ハ下二用

完了

婉曲

その山は、ここに㉑たとへば、比叡の山を二十ばかり㉒重ね上げ<sup>セ</sup>たら<sup>ッ</sup>むほどして、なりは

比況

ラ変用

過去

塩尻の<sup>タ</sup>やうになむ㉓あり<sup>チ</sup>ける。

カ四用

ラ変終

なほ⑳<sup>ナ</sup>行き行きて、武蔵の国と下総の国との中に、いと大きな河㉕あり。それをすみだ河と

ハ四終

ワ上一用

ラ四用

カ変用

完了過去

いふ。その河のほとりに㉗群れゐて、㉘思ひやれば、限りなく遠くも㉙来<sup>ッ</sup>に<sup>テ</sup>けるかなと

ハ四用

存続

ラ四用

ラ下二用

強意

ハ四体

ラ四用

ラ四用

意志

わびあへ<sup>ト</sup>るに、渡し守、「はや舟に⑳<sup>フ</sup>乗れ。日も㉒暮れ<sup>ナ</sup>ぬ。」と㉓言ふに、㉔乗りて㉕渡ら<sup>ニ</sup>む

サ変体

ハ四体

断定

ラ変用

打消

と㉖するに、みな人ものわびしくて、京に㉗思ふ人なき<sup>ヌ</sup>にしも㉘あら<sup>ネ</sup>ず。さる折しも、白き鳥

断定

ハ四用

ハ四終

ヤ下二用

打消

の、嘴と脚と赤き、鳴の大きさ<sup>ノ</sup>なる、水の上に㉙遊びつつ魚を㉚食ふ。京には㉛見え<sup>ハ</sup>ぬ鳥

断定

ラ四用

打消

ハ四用

過去

ハ四体

カ四用

なれば、みな人㉜見知ら<sup>フ</sup>ず。渡し守に㉝問ひ<sup>ヘ</sup>ければ、「これなむ都鳥。」と㉞言ふを㉟聞きて、

ハ四用

ハ四用

意志

ハ四体

名にし㉞負はばいぎ㉟こと問は<sup>ホ</sup>む都鳥わが㊱思ふ人<sup>ハ</sup>ありやなしやと

マ四用

完了過去

カ四用

完了

過去

と㊲詠め<sup>マリ</sup>ければ、舟こぞりて㊳泣き<sup>ム</sup>に<sup>メ</sup>けり。